

千代川流域地域

---

土地分類基本調査

---

若桜・村岡

5万分の1

国土調査

鳥取県

1976

## ま え が き

国土の秩序ある利用を図ることは、人口がちょう密で土地資源が限られている我が国において緊急かつ重要な課題であるが、その基本的理念は、国土が国民の生活及び生産の共通の基盤であることを念頭に置き、公共の福祉を優先させ、自然環境を損なわず、地域の自然的、社会的及び文化的特性を配意した均衡ある発展が図られるものでなければならない。

鳥取県は山陰の中央部に位置し、その地理的、気象的条件から土地利用の発展が遅れていたが、それだけに未利用部分は多く、利用発展の可能性をもっている。この利用発展を具体化するため高速交通体系及び各種産業開発構想等が計画として策定されている。

幸いに国において土地利用に関する具体的な公的プロジェクトのある地域の土地条件を明らかにするために、国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査が設けられているが、これは、土地の利用や規制に関する計画の基礎的な資料を提供するものとなっている。本県としてもこのような情勢に即応して、大山山ろく開発地域の土地分類基本調査として昭和48～49年度に「赤碓」「大山」「青谷」「倉吉」（建設省国土地理院発行縮尺5万分の1地形図）を、千代川流域地域の土地分類基本調査として、昭和50年度に「鳥取北部」「鳥取南部」（同図）を実施したのに引き続き「浜坂」「若桜」「村岡」（同図）の鳥取県の区域を国土調査の指定を受け都道府県土地分類基本調査実施大綱及び鳥取県千代川流域地域都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき、地形分類図、表層地質図、土壌図、傾斜区分図、水系谷密度図、開発規制図、土地利用現況図の7図葉と簿冊を作成した。なお、印刷に当っては「若桜」「村岡」は接合印刷とし「浜坂」は別冊とした。

今後、他の図幅についても逐次実施し、全県下の図幅について作成する予定である。

## 目 次

まえがき

総 論

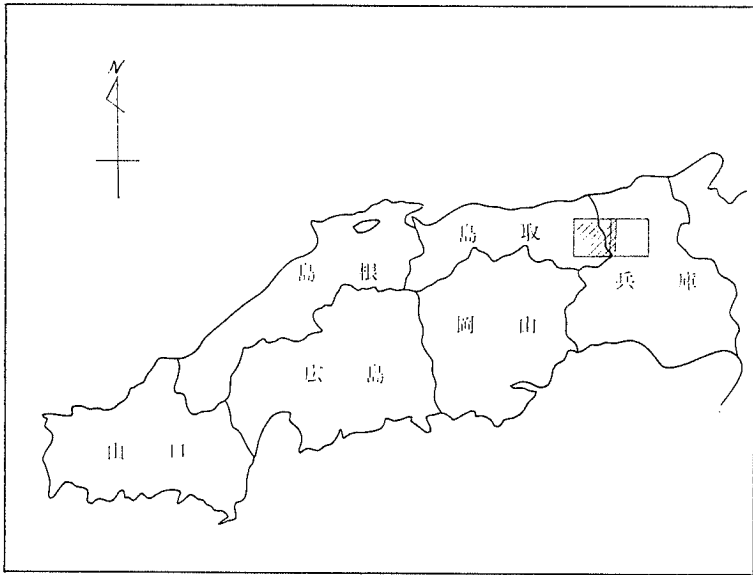
- I 位置、行政区画 ..... 1
- II 人 口 ..... 2
- III 地域の特性 ..... 4
- IV 開発の方向と主な基本計画 ..... 7

各 論

- I 地形分類図 ..... 9
- II 表層地質図 ..... 12
- III 土じょう図 ..... 18
- IV 水系谷密度 ..... 25
- V 傾斜区分図 ..... 26
- VI 開発規制図 ..... 27
- VII 土地利用現況図 ..... 30

あとがき

位置図



# 総論

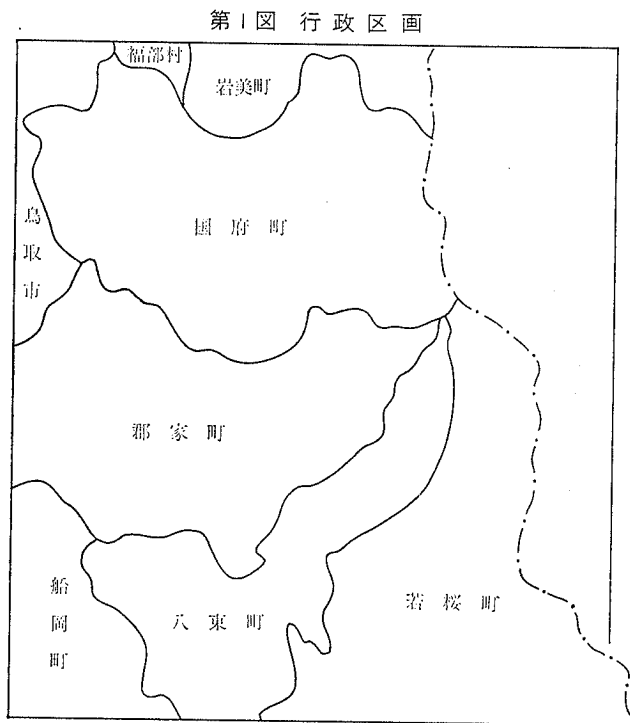
# I 位置・行政区画

## 1 位 置

「若桜」図幅は北緯 $35^{\circ}20'$ から $35^{\circ}30'$ まで東経 $134^{\circ}15'$ から $134^{\circ}30'$ までの範囲である。これに村岡図幅内の鳥取県の部分加わった範囲である。

## 2 行政区画

本図の行政区画は、第1図のように鳥取市、国府町、岩美町、郡家町、船岡町、八東町、若桜町、福部村の1市6町1村からなる。



## Ⅱ 人 口

本地域は鳥取県の東端部に当たり、ほぼ全域が鳥取市の経済圏内に入っている。昭和40年から昭和50年にかけての人口の推移をみると、鳥取市は全期間を通じて人口の増加傾向が認められる。しかし岩美郡、八頭郡の各町村は人口の減少傾向が共通して認められる。ただし鳥取市に隣接した町村の一部では鳥取市郊外としての住宅地化により人口が増加傾向に転じるものが認められる、国府町はその事例にあたる。

世帯数の推移をみると、鳥取市では著しい増加が認められ昭和40年代の10年間に1.3倍となり、人口が10年間で1.1倍になったのに比べて大きな値を示している。これは核家族化、世帯の細分化が進んでいることによるものであろう。他の町村においても世帯数は増加するか横ばいであり、著しい減少が認められないのは同様の理由による。

しかしながら山間部の集落においては、若年人口の流出、人口構成の高齢化が進行しているので、今後人口減少を食い止め活力ある地域社会とするための諸施策が実施されなければならない。

第1表 世帯数、人口、人口移動状況

区 分		年 次				昭和40年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年
		世帯数	人口	自然増	社会増	世帯数	人口	自然増	社会増	世帯数	人口	自然増
鳥取市	世帯	26,670	32,113	31,256	32,323	33,163	34,000	35,384				
	人口	108,860	111,258	114,252	115,300	117,276	119,140	122,312				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	2,994	1,048	1,976	1,864	3,172		
					減	1,106	1,305	1,227	1,300	1,245		
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	1,888	△ 257	749	564	1,927		
					減							
国府町	世帯	1,757	1,815	1,866	1,920	1,933	1,958	1,950				
	人口	8,904	8,531	8,479	8,505	8,549	8,569	8,550				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 373	△ 52	26	44	20	△ 19	
					減		28	52	57	51	57	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 80	△ 26	△ 13	△ 31	△ 76		
					減							
岩美町	世帯	3,718	3,758	3,722	3,779	3,794	3,821	3,826				
	人口	18,004	16,638	16,593	16,410	16,252	16,153	16,062				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 1,366	△ 45	△ 183	△ 158	△ 99	△ 91	
					減		34	86	64	52	53	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 79	△ 269	△ 222	△ 151	△ 144	
					減							
福部村	世帯	673	688	697	700	699	705	695				
	人口	3,515	3,358	3,297	3,314	3,281	3,249	3,193				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 157	△ 61	17	△ 33	△ 32	△ 56	
					減		9	24	7	14	11	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 70	△ 7	△ 40	△ 46	△ 67	
					減							
八尾町	世帯	2,144	2,173	2,172	2,199	2,209	2,241	2,239				
	人口	10,391	9,761	9,788	9,762	9,647	9,678	9,651				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 630	27	△ 26	△ 115	31	△ 27	
					減		40	48	49	42	53	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 13	△ 74	△ 164	△ 11	△ 80	
					減							
船岡町	世帯	1,141	1,136	1,149	1,150	1,156	1,156	1,138				
	人口	5,612	5,291	5,198	5,120	5,063	5,034	4,938				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 321	△ 93	△ 78	△ 57	△ 29	△ 96	
					減		△ 12	△ 12	9	22	16	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 81	△ 66	△ 66	△ 51	△ 112	
					減							
八東町	世帯	1,549	1,536	1,497	1,497	1,495	1,499	1,481				
	人口	7,706	7,069	6,824	6,754	6,702	6,690	6,572				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 637	△ 245	△ 70	△ 52	△ 12	△ 118	
					減		7	30	46	23	33	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 252	△ 100	△ 98	△ 35	△ 151	
					減							
若桜町	世帯	1,857	1,797	1,782	1,779	1,768	1,731	1,775				
	人口	8,455	7,568	7,347	7,253	7,146	7,068	6,989				
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減	△ 887	△ 221	△ 94	△ 107	△ 78	△ 79	
					減		18	5	31	1	26	
	移動状況	総自社	自然増	社会増	減		△ 239	△ 99	△ 138	△ 79	△ 53	
					減							



### Ⅲ 地 域 の 特 性

#### 1 自然的特性

本地域には鳥取県東部の高山でアスピーテ型火山である扇ノ山および氷ノ山があり、また扇ノ山火山の溶岩台地が広大な範囲を占めている他壮年山地が図幅の大半を占めている。気候的には曇天・雨天の多い山陰型気候であり、特に冬季の積雪量が著しい。

#### 2 歴史的特性

本地域の山ろく部や平野は開発の歴史が古く、先史・原始時代の遺跡が多く分布している。とくに古墳群は鳥取平野の南部の山ろく地や郡家南方の山ろく地や稲葉山の山ろく部に数多く分布している。古代の遺構としては袋川扇状地に条里制遺構および国庁、国分寺などの遺構が復元されつつある。また岡益の廃寺跡や玉鉾の廃寺跡なども残存している。

#### 3 社会的、経済的特性

##### (1) 農 業

鳥取平野および各河川の谷底平野は主要な米作地帯である。鳥取平野を囲む山地や郡家付近の山地の緩斜面や台地には二十世紀なしや柿の果樹園が分布する。

##### (2) 林 業

本地域は鳥取県東部の林業地帯であり、スギ・ヒノキなどの人工林が八頭郡の山地ではとくに良好な分布をしている。若桜町などの山間地の集落は林業依存の度合いが強い。

##### (3) 鉱・工業

本地域の伝統産業としては津ノ井付近の瓦製造業や若桜町の製材業などがあげられるが規模は小さい。近年津ノ井には工業団地が造成された他各町村に農村工業が立地しつつある。

##### (4) 観 光

本地域には氷ノ山、後山、那岐山国定公園の東半部が分布しており貴重な自然景観が残っている。高原景観としては河合谷、広留野高原等が景観的にすぐれ、雨滝などの滝や峽谷美も数多い観光資源の要素となっている。冬季の積雪が多いため氷ノ山などのスキー場適地も多い。溶岩台地を刻む浅い谷（前輪廻）の中に泥炭地や池が形成

されることがあり、菅野湿原のようにミズゴケ湿原として天然記念物に指定されたり唐川のようにカキツバタ群落の自生がみられるのである。菅野湿原付近や唐川付近はゴルフ場その他のレクリエーション基地として開発が計画されている。

## (5) 統計資料

本図葉に係る市町村の就業構造と産業別事業所数・販売・出荷額を記すと第2表、第3表のとおりである。

第2表 就業構造 昭和45年国勢調査

市町村名 区分	鳥取市	岩美郡			八頭郡			
		国府町	岩美町	福部村	郡家町	船岡町	八東町	若桜町
農業	9,291	2,085	3,147	970	2,351	1,257	1,706	1,128
林業・狩猟業	98	1	24	—	7	38	49	196
漁業・水産養殖業	308	—	923	55	1	—	—	—
鉱業	28	1	15	—	—	3	6	5
建設業	3,563	277	573	74	414	217	337	248
製造業	12,020	1,098	1,636	266	872	492	691	1,209
卸売業・小売業	11,906	401	930	260	611	290	341	450
金融・保険業	1,589	49	97	15	51	30	39	37
不動産業	229	4	10	—	13	5	6	3
運輸・通信業	3,484	239	448	83	262	110	161	222
電気・ガス・水道業	531	29	18	7	22	5	15	26
サービス業	11,629	503	1,057	197	942	385	535	503
公務	3,104	162	261	50	195	83	99	136
その他	45	6	22	4	5	—	5	5
計	57,825	4,855	9,161	1,981	5,746	2,915	3,990	4,168

第3表 産業別事業所数・販売・出荷額等

市町村名 区分		鳥取市	岩美郡			八頭郡			
			国府町	岩美町	福部村	郡家町	船岡町	八東町	若桜町
工業	事業所数	580	30	59	8	38	20	15	46
	従業所数	13,833	614	1,140	126	600	270	408	823
	製造品出荷額等 (100万円)	99,560	2,816	4,366	621	2,371	930	1,776	3,743
商業	商店数	2,988	64	233	55	145	72	82	159
	年間販売額 (100万円)	207,131	552	2,226	1,733	1,364	546	702	1,370
農業	農家数	5,597	1,185	1,830	555	1,413	773	1,031	803
	(専業)	329	73	88	43	113	44	146	26
	(兼業)	5,268	1,112	1,742	512	1,300	729	885	777
	生産農業所得 (100万円)	3,866	775	1,006	510	1,232	529	908	348
	耕地面積総数 (ha)	4,550	1,110	1,310	576	1,280	603	877	503
	田	3,750	907	1,090	312	963	467	565	340
	畑	800	203	220	264	317	136	312	163

昭和50年工業統計調査

昭和49年商業統計調査

昭和49～50農林水産統計

## Ⅳ 開発の方向と主な基本計画

### 1 農 林

平野部においては農地の基盤整備がかなりすすんでいるが、ほ場整備や農道建設、大型農業機械の導入などを更にすすめ、水稻作の高度集団化をすすめ、鳥取市近郊では市場性の高い野菜の生産を図る。山ろく地帯、中山間部では基盤整備と共同利用の中型機械の導入を図り、稲作の省力化、機械化をすすめる。また野菜の団地造成、梨・柿・栗など果樹の生産増大を図りつつある。一方畜産に関しては、中小家畜の団地化、草地造成および水田裏作の活用等による大家畜の多頭飼育を進めている。扇ノ山の河合谷高原においては大型牧場の造成計画もある。

### 2 林 業

森林資源の培養を図るため、人工造林を推進するとともに森林の効率的利用と保全のため林道の整備がすすめられてきた。本地域では十王峠付近から扇ノ山をへて佐治谷方面にぬける大幹線林道の他各種林道網の整備を進めつつある。

### 3 工 業

本地域は三洋電気および日本フェライトとその下請からなる電気機械工業や機械金属工業などの内陸型工業が既に立地しており、今後更に男子型企業の導入を図っている。また農業と結びついた食品工業や林業と結びつけた木製品工業など地場資源を活用した企業のはりつけを図る。

### 4 観 光 開 発

本地域内の優れた自然や観光資源の特性を活かした観光開発が必要である。図葉内には氷ノ山、扇ノ山等の山岳があり、公園計画に基づき、スキー場、キャンプ場、ハイキングコース等の施設の整備を行なう。

国府町においては菅野開発事業計画が第三セクター方式ですすめられている。また国府町内の文化財を整備して歴史散策のコースを設定する構想がある。

### 5 交 通 体 系

本地域は山地が深く交通条件の整備にとってはネックとなっている。しかし、住民の行動範囲や交流圏を拡大する自動車の普及に対処して、道路の整備が必要である。国道は29号線が鳥取市から南にのび若桜間に連結している。また主要地方道、一般県道が谷

底平野や平坦地にのびているが、峠や山地内では未舗装であるものが多く整備が必要である。

## 6 環境問題等

氷ノ山後山国定公園は優れた自然景観が認められ、また公園外にも良好な自然がかなり残っているのでこれらを含めて自然環境の保全を図る必要がある。また水源資の確保が必要であり、国府町神護・拾石地区や八頭郡内の適地においてダムの建設が構想されている。

又、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、下水道整備をすすめる必要がある。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

# 各 論

## I 地形分類図

### 1 地形概説

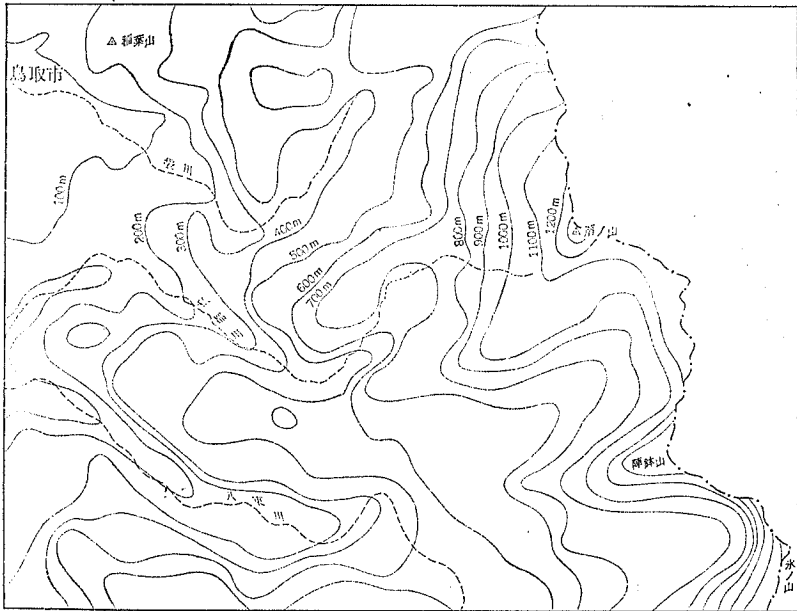
本地域は図葉東部に扇ノ山、氷ノ山などの 1,300m を越す火山地があり北西の方向に向って高度を減少する地勢を示している。その地形の大要は接峰面図で大観することができる。

第2図の接峰面図は、5万分の1地形図を1km方眼に細分し、その方眼の最高点をデータとして画いたものである。これを見ると、海拔800mの等高線を境界としてその東側はやゝ急峻な火山地を形成している。海拔500mの等高線は図葉の対角線沿いにのび、この等高線が地形の交換線となっているようである。交換線より東南側の山地は起伏もやゝ大きく傾斜も急なものが卓越するが、西北側の山地は低起伏でなだらかな山地が多い。

河川としては袋川、私都川および八東川が主要なものである。

第2図

接峰面図



## 2 地形細説

### 2-1 山地

本地域の山地のうち大起伏山地は、氷ノ山を含んだ図葉東南部のもので、海拔 1,000 m以上の部分が相当する。氷ノ山西北ろくは火山体がかかり侵食され、急斜面を形成する。また山頂部および東斜面は平滑で、原面が相当保残されている。

中起伏山地はほぼ大茅山と遠見山をつなぐ線より東側の山地にあたる。これらの山地は扇ノ山火山、氷ノ山火山の火山斜面に相当し、山地の頂部には広い山頂緩斜面が残存している。この山頂緩斜面は溶岩台地である場合が一般的であり、扇ノ山北方の河合谷、高原や西方の菅野付近に良好に発達している。また扇ノ山南西には広留野の平坦面がみられるがこれも溶岩台地である。このような中起伏山地を刻む大小の河川は硬い溶岩の部分で滝や瀬を作っており、雨滝や大鹿滝がその代表的なものである。また、比較的軟かい第三紀堆積岩の部分では緩流を形成したり小盆地を形成していることがある。上地、姫路、明辺などの盆地はそのような環境の山間盆地である。また盆地周辺の山腹斜面にも緩傾斜面が分布し崖錐堆積物や土じょう、ロームなどに被覆されていることも多い。このような性質の緩斜面は古崖錐地形として一括図示した。氷ノ山西ろくの緩斜面、上地西南方の緩斜面などがこの地形に相当する。

小起伏山地は船岡町南部や郡家町南部の山地や稲葉山の山地に分布していて海拔 200 mないし 700 mくらいの山地である。一般に壮年期的な山地であるが、稲葉山の山頂部には広い平坦面が残っている。

山ろく地は郡家付近や鳥取市南西部に分布し、海拔 200 m以下のなだらかな丘陵性山地を形成している。この山ろく地の山頂部にも平坦面が残存していて果樹園やその他の農地として利用されている。

### 2-2 台地

本地域の津ノ井付近および国分寺付近と郡家付近には高位段丘がみられる。これらの段丘は大山ロームに被覆され、津ノ井粘土層が段丘の主体を構成している。国分寺付近では比高が小となり沖積平野面下に北方でもぐる。

中位段丘は比較的大きな粒径の段丘堆積物で構成され、大山ロームのうち上部ロームとクロボクによって被覆されている。本図葉内では船岡町、郡家町に良好に発達し、主として水田化されている。



低位段丘は八東川に沿って分布しているものが多い。この段丘は沖積段丘であるが、クロボクが被覆している場合がある。

### 2-3 低地

低地はデルタと谷底平野に区分される。本図葉内のデルタは、図の西北端にのみ分布し、海拔高度10m以下の地域に相当する。ここでは軟弱なシルト、泥炭が卓越し地盤も軟弱である。

袋川扇状地はデルタの南東部に分布し、玉鉾付近を扇頂とし、岩倉、杉崎を結ぶ線を扇端とする範囲にあり、数条の旧河道の乱流の痕跡が残存している。この扇状地は表土に20~30cmの黒色土があり、その下部には厚い砂れき層があり、円れきが卓越している。ここは条里制が認められる。

八東川および私都川沿岸の谷底平野は薄い表土下に砂れき層が堆積し、大部分が水田として利用されている。

### 3 地形災害

本地域の低地においては、河川の氾濫による洪水災害があり、鳥取市卯垣付近の旧河道跡の低湿地は常習浸水地帯である。

河川の中上流域では鉄砲水や土石流被害を受け易いところが散在している。また、中起伏山地の斜面部には地すべり地形が分布している。北から十王峠、栃本、楠城、横地、角谷とはほぼ直線状に運って分布し、横地では、1976年においてもかなり著しい地すべり被害がでている。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

## Ⅱ 表層地質図

### 1 表層地質概説

本図葉に分布する岩石及び堆積物は未固結堆積物，半固結堆積物，固結堆積物，火山性堆積物（半固結～未固結），火山性岩石（固結），深成岩および変成岩に大別される。これらのうち基盤を構成する岩石は変成岩，深成岩，火山性岩石および固結堆積岩である。変成岩と深成岩は図葉の南西部に広く分布し，火山性岩石は図葉の東城兵庫県境付近に南北に連なっている。固結堆積岩と火山性岩石からなる新第三系の鳥取層群は盆状構造をなして図の北西部に露出している。第四系の未固結半固結堆積物は鳥取平野に広く発達しているほか谷底平地に沿って薄く発達している。

変成岩は N60°W 方向に一般走向を持ち，褶曲している。これを切る断層はほぼ南北方向に伸びるが顕著なものは来見野—若桜，大坪—大門，西谷—小倉に連なるものである。このほか，第三系を切る断層は美敏，十王峠—木原，および大坂にみられる。

扇ノ山の火山性岩石は西に緩斜する火山地形をなし，その溶岩流は富枝および荒船まで流下している。（第4表を参照）

第4表 表層地質総括表

地質時代		未固結堆積物	半固結堆積物	固結堆積物	火山性岩石(固結) (含火山性堆積物)	深成岩	変成岩
新 生 代	第四紀	砂 (sg) 泥 (m) 泥炭 (P)					
	更新世 D		砂礫物+火山灰土 (cL) 砂礫 2 (Sg2) 砂礫 1 (Sg1) 粘土 (C)		ローム (L) 安山岩質岩石 2 (Qv)		
	更新世 A						
	新第三紀 Tn				流紋岩質岩石 2 (Tr) 安山岩質岩石 1 (Pv)		
中生代 M	中新世			泥岩・砂岩 (Tt) 礫岩・砂岩 2 (Tm2) 礫岩・砂岩 1 (Tm1)	火砕岩 4 (Tp4) 火砕岩 3 (Tp3) 火砕岩 1 (Tp1)	花崗岩質岩石 2 (Df)	
	白垩世					花崗岩質岩石 1 (Gr) 斑角岩質岩石 (Gg) 流紋岩質岩石 1 (Mr) 流紋岩質岩石 (Sp)	
古生代 P							三部 変成 岩 緑質片岩 (So) 黒色片岩 (Bs) 緑色片岩 (Gs)

## 2 表層地質細説

### (1) 未固結堆積物

砂+れき (sg)

国府川、八東川などの谷底平地に分布する現河床堆積物である。れき質は上流部の固結岩で円れきないし亜角れきからなる。層厚は鳥取平野付近では10mを越すが谷底では一般に薄い。地下水は顕著に流動している。

泥 (m)

鳥取平野の南縁、国府扇状地付近に発達する。杉崎、津ノ井付近の沖積地にも見られる。

泥炭 (P)

国府町菅野と福部村唐川に発達する沼湿地堆積物で、ミズゴケの未分解遺骸を主とする泥炭で地下水が豊富で軟弱な堆積物である。

碎屑物+火山灰土 (cl)

図葉内の山ろく斜面や山脚部に発達する崖堆積物のうち、火山灰土をのせる更新世の堆積物をここに一括した。若桜町氷ノ山スキー場、国府町楠城、八東町<sup>マア</sup>尽山などに発達している。火山灰土は大山火山に由来するものと考えられる。

### (2) 半固結堆積物

砂れき 2 (Sg 2)

本図葉内でみられる段丘のうち下位段丘を構成するものと扇状地堆積物を一括した。火山灰に被覆されない点で砂れき 1 と区別できる。一般に新鮮な円れきからなる。

砂れき 1 (Sg 1)

砂れき 2 (Sg 2) に含まれないすべての段丘堆積物・扇状地堆積物で火山灰に被覆されている堆積物。中位段丘・上位段丘構成物を一括した。火山灰は大山から供給されたと考えられるが、その層位は不明なので一括した。“くさりれき”化したものもみられる。郡家町宮谷、久能寺、山田、津黒などに発達している。

粘土 (C)

更新統の湯山粘土層を構成する粘土で、鳥取市、杉崎、津ノ井、船木に分布している。鳥取平野の海岸部に発達する古砂丘(湯山砂層)の同時異層で大山中部火山灰層

に被覆されている良質の河成粘土で瓦粘土として利用されている。

### (3) 固結堆積物

#### 泥岩, 砂岩 (Tf)

本図葉内に広く分布するこの泥岩, 砂岩は鳥取層群のうち普舎寺泥岩層に属するもので, 灰かっ色ないし淡かっ色を呈するシルト質砂岩と黒色泥岩とからなり, しばしば互層をなしている。層厚は 400m~500mに達し, 海棲の化石を産出する。また, まれに植物化石も産する。全体が北東に開いた盆状構造を呈している。

#### れき岩, 砂岩 2 (Tm 2)

鳥取層群の円通寺・砂岩れき岩層に相当するもので上述の泥岩, 砂岩の下位に整合的に発達している。図葉の南東, 茗荷谷から神護までよく追跡できる。いっぽう, 鳥取市桂木から郡家町堀越間の国道沿いにもよく発達している。れきは下位の河原火砕岩層由来のもののほか, チャート, 花崗岩等, 古期岩類も含んでいる。淵見では閃緑岩の貫入を受け熱変質している。

#### れき岩, 砂岩 1 (Tm 1)

鳥取層群の基底れき岩である郡家れき岩層に相当するもので, 郡家町大坪から麻生間の私都川沿いと, 国府町中河原付近に分布している。淘汰のあまりよくない亜角れきからなり, 風化をうけると特有の赤紫色を呈する。

### (4) 火山性堆積物

#### ローム (L)

「鳥取北部, 鳥取南部」図葉以西でローム 3 (大山上部火山灰), ローム 2 (大山中部火山灰), ローム 1 (大山下部火山灰) と細分してきた火山灰層を一括してロームとした。これは大山から離れるに従い, 火山灰の発達が悪くなり, 細分が不可能になったからである。稲葉山, 広留野などの平坦地には層厚 50cm 前後のロームが発達しているほか, 段丘や崖錐を被覆して現地形に調和して発達している。

### (5) 火山性岩石 (固結)

#### 安山岩質岩石 2 (Qv)

溶岩および火山砕屑物を主とする本安山岩質岩石は扇ノ安山岩類に属するもので扇ノ山を中心に四周に流下している。氷ノ山山頂付近のものも一括したが, いずれも鮮新世末から更新世の初期の噴出と考えられる。岩質はかんらん石安山岩, 両輝石安

山岩および普通輝石かんらん石玄武岩である。

#### 流紋岩質岩石 2 (Tr)

この岩石は国府町雨滝と岩美町鳥越の中間に分布するもので溶岩と火砕岩からなる。鮮新世火山岩類に属するものである。火砕岩中には黒曜石片を含んでいるものもある。

#### 安山岩質岩石 1 (Pv)

「鳥取北部・鳥取南部」図葉で玄武岩質岩石 (Pv 2) としたものに相当する鮮新世火山岩で、鳥取県中部では三朝層群の中部に卓越する岩石である。溶岩を主とし、雨滝、拾石、稲葉山に発達している。無斑晶安山岩、かんらん石玄武岩などからなる。

#### 火砕岩 4 (Tp 4)

火砕岩を主とする中新世末の噴出岩で、照来層群相当のものである。分布はきわめて広く、図葉の東から南西部にまで広がっているが、東部では安山岩質岩石 2 (Qv) によって被覆されている。本火砕岩は主に安山岩質の凝灰角れき岩からなる。

#### 火砕岩 3 (Tp 3)

鳥取層群の荒金火砕岩層と小田安山岩層を一括したもので、火砕岩と溶岩からなる。図葉の北端に分布するのみである。流紋岩ないし石英安山岩質の凝灰角れき岩を主とし一部で変質している。小田安山岩は小田南方で厚いがこれを離れると急に薄くなり尖滅する。

#### 火砕岩 1 (Tp 1)

本岩は主として安山岩、玄武岩および粗面安山岩質の火砕岩からなり、溶岩、溶結凝灰岩を伴ない、図葉の中央部、郡家町から国府町にかけて分布している。河原火砕岩層に所属するもので、局部的に砂岩、泥岩の薄層をはさむ。一般に変質して緑色化している。

#### 流紋岩質岩石 1 (Mr)

本図葉の北西部に花崗岩と密接に関連して分布するち密、堅硬な岩石で中生代火山岩類に所属するものである。流紋岩質の溶結凝灰岩、火砕岩、溶岩からなる。

### (6) 深成岩

#### 花崗岩質岩石 4 (Df)

石英閃緑岩・閃緑岩・玢岩などで中新統を貫く深成岩類を一括したものである。若

桜町淵見の淵見閃緑岩、同町大鹿滝付近の大鹿閃岩を含み、岩相変化がいちじるしい。淵見閃緑岩は北北西—南南東方向に分布し、大鹿閃岩は北北西方向の岩脈状に分布している。国府町手放山の岩体は鳥取層群を貫入し、鮮新世火山岩類によっておおわれている。

#### 花崗岩質岩石 3 (Gr)

鳥取県下にもっとも広く分布する鳥取花崗岩に相当するが本図葉では被覆されていて、小範囲にしか発達していない、岩相は、粗粒黒雲母花崗岩を主とし、アブライト質花崗岩をまじえる。深層風化がいちじるしくまさ状になる。

#### 斑岩質岩石 (Gg)

斑岩質岩石は八東町斐鹿野、若桜町来見野などに小岩体となって分布する。三郡変成岩類を貫く小岩脈としてみとめられる。岩相は優黒色、塊状粗粒～細粒に移化しあう。

#### 蛇紋岩質岩石 (Sp)

本図葉中央部八東町横地、若桜町角谷に地すべり地形を呈した本岩の分布地がある。三郡変成岩の一般走向と並行し、片状構造が発達している。原岩のかんらん岩類の岩体をのこす部分もあるが、ほとんどが蛇紋岩化している。

### (7) 変成岩

#### 緑色片岩 (Gs)

弱変成をうけた古生層で、三郡変成岩のうち原岩が塩基性火山岩源のものである。変成度は黒色片岩、珪質片岩より高い。分布は本図葉南城の若桜町と八東町で、一般走向はN60°—70°Wである。

#### 黒色片岩 (Bs)

三郡変成岩のうち泥質岩源の古生層が低度の変成をうけたもので、岩質は千枚岩で、一部に石灰岩のレンズ状小岩体が挟在されている。

#### 珪質片岩 (So)

チャートおよび砂質岩源の古生層が千枚岩化したもので三郡変成岩に所属するものである。若桜町、八東町、船岡町にN60°—70°Wの一般走向で分布する。緑色片岩の薄層を挟在する。

## 3 応用地質

## (1) 災 害

### 地すべり・山崩れ

図葉内で地すべり地として留意すべき場所は、八東町横地地区と角谷地区の蛇紋岩分布地があげられる。横地地区はすでに被害が発生し、家屋の移転等がおこなわれている。角谷地区では民家はなく、水田があるのみである。この地区は過去の地質時代に何度か滑動したものが、最近局部的に動いているものであろう。また、上地、楯城の急斜地は山くずれ、または地すべりに充分留意すべきところである。

若桜町、八東町、船岡町の変成岩分布地では、南北性の断層もしくは割れ目にそって、豪雨時、山くずれが発生しやすいし、鉄砲水により山ろくの集落に土砂が流出する可能性がある。

### 平野の地盤

鳥取平野の南東域は国府川の扇状地堆積物が発達し、南では津ノ井粘土層が平野の地下に潜入するので地盤は安定している。立川付近の低地の多くは旧河道で、豪雨時には内水による浸水が心配される。

## (2) 鉱 床

図葉内には見るべき鉱床はない。旧鉱山として上地鉱山があり、ズリ山は大きい。現在まで鉱水の被害は報じられていない。

変成岩地域にはマンガン鉱が胚胎されているものの、ごく小規模のもので現在では全く、その位置も確認できない状態である。

## (3) 石 材

八東町富枝では扇ノ山安山岩を大規模に採石しているが、これは骨材として利用されている。骨材としての採石場は、このほか変成岩地帯の珪質千枚岩分布地にあったが、現在では休業中のものが多い。

若桜町淵見の閃緑岩は検地石として良質の石材であり、現在2ヶ所で稼働されている。

この他、各地に採石場跡が見られるが、放置されたままであって、災害上今後問題が残るであろう。

## (4) 地下水、温泉

鳥取平野では地下水が豊富で、国府川の扇状地では水質及び水量ともに良質である。

温泉はないが湯徴地として若桜町湯原があげられる。同地の地下水は年平均して20°C前後の温度が測定されているが、掘さくは成功していない。

火山性岩石の分布地では各所に湧水が見られる。

(鳥取大学 文部教育 赤木 三郎)

( " " 岡田 昭明)

### Ⅲ 土 じ ょ う 図

#### 1 山地および丘陵地域の土じょう

##### 1-1 土じょうの概要

本図葉は鳥取県の東南部浜坂図葉の南に位置し、鳥取市街の東南部を含む千代川の支流袋川、私都川、八東川などの流域とその背後部の中国地方第2の高峰須賀ノ山(通称氷ノ山)をはじめ扇ノ山、陳鉢山など標高1000m以上の山々が連なり、その間に河谷高原、雨滝瀑布など氷ノ山後山那岐山国定公園の一部を包含して兵庫県に接する地域である。

図葉内に出現する土じょうは、かっ色森林土じょうがその大部分を占め、兵庫県境に黒ボク土じょうやポドゾル化土じょうが局部的にみられ、これらは地形、地質などにより各々特徴をもった土じょうを形成し分布している。

かっ色森林土じょうは袋川上流、私都川上流、八東川流域など開析の進んだ山地や丘陵地に広範に分布し、一般的にその尾根筋には乾性かっ色森林土じょうがみられる。また低山丘陵地や中山間部には、黄かつ系ないし赤かつ系かっ色森林土じょうが分布している。扇ノ山、須賀ノ山を中心とした兵庫県境には、これらの火山灰による黒ボク土じょうがみられ、標高1000m以上の山頂部や尾根筋とその肩などに局所的に乾性ポドゾル化土じょうが分布している。

出現する土じょうをとりまとめると4土じょう群、12土じょう統群となり次表のごとくである。



第 5 表 山地および丘陵地の土じょう一覧表

土じょう群	土じょう統群	記号
岩石地	岩石地	RL
黒ボク土	厚層黒ボク土じょう	AT
	黒ボク土じょう	A
	淡色黒ボク土じょう	AE
かっ色森林土	乾性かっ色森林土じょう	B-d
	〃 (黄かっ系)	B(Y)-d
	〃 (赤かっ系)	B(R)-d
	かっ色森林土じょう	B
	〃 (黄かっ系)	B(Y)
	〃 (赤かっ系)	B(R)
	湿性かっ色森林土じょう	B-W
ポドゾル	乾性ポドゾル化土じょう	P-d

## 1-2 土じょう細説

## 岩石地 RL

安山岩の露出した八東町富枝地域で、交通の便もよく碎石事業がおこなわれている。

## 厚層黒ボク土じょう AT

扇ノ山須賀ノ山の火山灰を母材とし、表層土が50cm以上で黒～黒かっ色を呈し、岩美町鳥越、国府町菅野、若桜町春米などの山地の緩斜面や谷筋に出現し、スギの造林地がみられその生育も割合良好である。

## 黒ボク土じょう A

厚層黒ボク土じょう同様火山灰を母材とし、黒～黒かっ色の表層土が50cm以下で、国府町、郡家町、八東町、若桜町などの山頂平坦面や緩斜面および山ろく緩斜面にみられる。

スギ、ヒノキの造林地が多く、その生育は厚層黒ボク土じょうよりやや劣り、高原

台地の若桜町広留野では夏ダイコンの栽培がおこなわれている。

淡色黒ボク土じょう A E

表層土が25cm以下でその色調は黒ボク土じょうより淡い黒色をなし、蕨ノ山を中心に標高 900m以上の尾根筋にやや幅広く出現し、一部の山頂尾根付近には天然ブナ林がみられるが、スギ造林地が多く地理的、気象的条件からその生育は良好とはいえない。

乾性かつ色森林土じょう B—d

兵庫県境より連なる山地を中心にした山腹上部や谷密度の高い丘陵地の尾根筋に幅狭く分布する。

A O 層が厚く発達し、A層は薄く堅密で腐植に乏しく、一部にM層がみられることもあり、その理化学性は劣り低質広葉樹林や天然アカマツ林が多くその生育は劣る。(林野土じょうのB<sub>A</sub>、B<sub>B</sub>、B<sub>C</sub>型に相当する。)

乾性かつ色森林土じょう(黄かつ系) B (Y) —d

低山丘陵地や中山間部のれき岩、凝灰岩、花崗岩などを基岩とする鳥取市、国府町(宇倍野地区)、郡家町(郡家、下私都、中私都地区)などの山腹上部から尾根筋にかけて比較的幅広く分布している。

A層は乾性かつ色森林土じょう同様浅く堅密で、腐植に乏しくB、C層は黄味を帯びた酸性土じょうで、アカマツ天然林や人工造林地が多いが、その生育は劣る。(林野土じょうのyB<sub>A</sub>、yB<sub>B</sub>、yB<sub>C</sub>型に相当する。)

乾性かつ色森林土じょう(赤かつ系) B (R) —d

泥岩、流紋岩、凝灰岩などを基岩とする国府町(宇倍野地区)、郡家町(下私都地区)などの里山丘陵地の山腹上部から尾根筋にかけて幅広く分布する。

上記土じょう同様A層は浅く堅密で、腐植に乏しくB、C層の色調は赤味が強くその理化学性も劣る酸性土じょうである。アカマツ天然林や人工造林地が多くみられるが、その生育は不良である。(林野土じょうのrB<sub>A</sub>、rB<sub>B</sub>、rB<sub>C</sub>型に相当する。)

かつ色森林土じょう B

乾性かつ色森林土じょうの出現する地域の山間中部から谷筋にかけて分布している。一般にA層は厚く腐植に富み、B層はかつ色を呈し、その層位は漸変し膨軟で粒状～団粒状構造がよく発達した匍行～崩積土である。地形によりスギ、ヒノキ、アカ

マツの造林適地に大別され、その生育も良好である。(林野土じょうのBD—d, BD型に相当する。)

かつ色森林土じょう(黄かつ系) B(Y)

乾性かつ色森林土じょう(黄かつ系)の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。

A層は比較的厚く腐植に富み、B、C層の色調はかつ色森林土じょうに比べ、黄味が強く山腹斜面はやや乾燥気味となり、アカマツ、ヒノキの造林地が多く谷筋では団粒状構造が割合よく発達し、スギの生育も良好である。また、日当りのよい斜面にはナシの栽培がおこなわれているところもある。(林野土じょうのyBD—d, yBD型に相当する。)

かつ色森林土じょう(赤かつ系) B(R)

乾性かつ色森林土じょう(赤かつ系)の出現する地域の山腹中部から谷筋にかけて分布している。

全層土とも比較的深いがやや堅密で構造の発達も不良なものもみられ、B、C層の色調は、赤味を帯び理化学性もやや不良でアカマツ、ヒノキの造林がおこなわれているが、その生育はやや劣り、一部ナシの栽培がおこなわれているところもある。(林野土じょうのrBD—d, rBD型に相当する。)

湿性かつ色森林土じょう B—W

かつ色森林土じょうの分布しているかなり起伏の大きい山腹下部から谷筋に幅狭く出現する。

A層は非常に厚く腐植に富み膨軟な団粒状構造が深くまで発達した崩積土で林野土じょうの一等地にあたりその生産力は高く、スギの優良林分が多い。(林野土じょうのBE, BF型に相当する。)

乾性ポドゾル化土じょう P—d

扇ノ山を中心にその南部より兵庫県境にかけた標高1000m以上の山頂部や尾根筋とその屑などに局所的に分布し、天然ブナ林がみられる。

地理的、気象的条件により落葉の分解が悪く、粗腐植のAO層(F・H層)が厚く堆積し、時には灰白色の溶脱層(A2層)が斑点状にあらわれたり、チョコレート色の集積層(B層)が認められたりし、酸性の強い土じょうである。(林野土じょうの

PDI, PDII, PDIII型に相当する。)

(鳥取県林業試験場 平尾 勝男)

### 参 考 資 料

1. 鳥取県林業試験場(1956~1969) 民有林適地適木調査報告書
2. 鳥 取 県 (1966) 鳥取県地質図
3. 林野庁大阪営林局(1968) 大阪営林局土壌調査報告書第13報鳥取事業区
4. 兵 庫 県 (1974) 林野土壌調査報告「浜坂・若桜・坂根」
5. 経済企画庁 ( // ) 土地分類図<sup>1</sup>/20万「鳥取県」
- 6 // ( // ) // 「兵庫県」
7. 鳥 取 県 (1975) 土地分類基本調査<sup>1</sup>/5万「鳥取北部・鳥取南部」

## 2 台地, 低地地域土じょう

### 2-1 土じょうの概要

本地区の土じょうを土地分類基本調査作業規程準則にしたがい, その断面形態母材, 堆積様式により, 次の如く細分した。

	土じょう群	土じょう統群
台地土じょう	灰色台地土	細粒灰色台地土じょう
	グライ台地土	細粒グライ台地土じょう
低地土じょう	黒ボク土	多湿黒ボク土じょう I~II
	灰色低地土	細粒灰色低地土じょう I~II
		灰色低地土じょう I~II
		粗粒灰色低地土じょう I~II, IV
	グライ土	細粒グライ土じょう
		粗粒グライ土じょう

### 2-2 土じょう細説

#### A. 台地土じょう

##### 1 灰色台地土

## (1) 細粒灰色台地土じょう (Gu-f)

本土じょうは、その断面の主要土層が灰かっ色を呈し、全層が重粘な土じょうである。残積性の土じょうで、沖積水田より高い位置(台地上)に分布し、生産性は低い。主として岩美郡国府町雨滝、楠城、荒船の山間台地上の水田が該当する。

## 2 グライ台地土

## (1) 細粒グライ台地土じょう

本土じょうは断面の主要土層が弱い青灰色を呈し全層が重粘で下層にグライ層最下層に粘れき層をもつ、土じょうで排水は不良である、沖積谷底平野より高い位置にあり小区画の棚田水田で八頭郡八東町の山地水田に僅かに分布する。

## B. 低地土じょう

## 1 黒ボク土

## (1) 多湿黒ボク土じょうⅠ (A-W-1)

本土じょうは火山灰に由来するもので表層～全層腐植層のもので置換容量20m $\ell$ 内外りん酸吸収係数1500～2000の土じょうで、八頭郡那家町宮谷、西御門、岩美郡国府町等の開析台地に僅かに分布する。

## (2) 多湿黒ボク土じょうⅡ (A-W-Ⅱ)

本土じょうは元來は腐植に富む火山灰質のものであるが他の影響をうけ表土の腐植の退化したもの、黒色層が下層に埋没したもの、下層にれき層をともなうもので一般耕地よりやや高い位置に分布する。置換容量は12～20m $\ell$ 、りん酸吸収係数700～1500で排水は良好なところが多く、生産力の中～高である。

岩美郡国府町広西、八頭郡那家町、船岡町、八東町、若桜町の水田にかなり広く分布する。

## 2 灰色低地土

本土じょうは土じょう断面の主要土層の土色(灰～灰かっ色)、下層土の土性、れき層の位置により、以下のごとく7分類される。

## (1) 細粒灰色低地土じょうⅠ (GL-f-Ⅰ)

本土じょうは断面の主要土層が灰～灰かっ色、土性が表土、下層土ともに重粘でマンガン結核をもたないものである。地質的には河原火砕岩、普含寺泥岩層の周辺の水田が該当し、置換容量15m $\ell$ 内外、土じょう密度が高く、透水性不良であるが水稻生

産力は中～高である。

岩美郡，国府町国分寺，鳥取市香取，八頭郡郡家町下坂，船岡町下濃，八東町才代の水田が該当し特に岩美郡国府町国分寺，鳥取市香取一帯の水田が，その主要部分を占める。

(2) 細粒灰色低地土じょう II (GL-f-II)

土じょう断面の主要土層が灰～灰かっ色，粘～重粒質で下層にマンガンの結核をもつ土じょうで，細粒灰色低地土じょう〔I〕に隣接し，同じ地質帯周辺に分布する。透水性はやや不良であるが生産性は前者と大差ない。

岩美郡国府町美敷，鳥取市桜谷，生山，八頭郡八東町の山沿いの水田に分布する。

(3) 灰色低地土じょう I (GL-I)

本土じょうは断面の主要部分が灰～灰かっ色で鉄班紋の発達がいちぢるしいが，マンガン結核をもたないじょう質の土じょうで排水良好で生産力は中～高である。

鳥取市滝山，岩美郡国府町麻生，新井，八頭郡郡家町大門，八東町富枝，船岡町見楸一帯の河川沿いの水田がこれに該当する。

(4) 灰色低地土じょう II (GL-II)

本土じょうは断面の主要土層が灰色～灰かっ色を呈し，下層にマンガン結核をもち，鉄の班紋の発達が顕著なじょう質の土じょうである。

灰色低地土じょう〔I〕よりはやや高い位置に分布するが化学性は大差ない。八頭郡郡家町大坪，八東町竹市に小面積であるが分布する。

(5) 粗粒灰色低地土じょう I (GL-C-I)

本土じょうは断面の主要土層が灰色を呈し30cm以内より砂れき層，れき層をもつじょう質～砂質の土じょうで一部下層が粘れき層のものを含め一般に浅耕土で透水性は過良で生産性は中～低に属する。

岩美郡国府町，八頭郡郡家町の山間地水田がこれに該当する。

(6) 粗粒灰色低地土じょう II (GL-C-II)

本土じょうは断面の主要土層が灰色を呈し30～60cmより砂れき層，れき層が出現する土じょうである。透水性は過良で各種塩類の溶脱が甚だしく，特に保肥力が弱く，下層に鉄の集積が甚だしい。(游子鉄表土0.4%下層土1.5%)，生産性は中である。

岩美郡国府町，八頭郡郡家町，八東町，若桜町の河川沿いの水田に広く分布する。

## (7) 粗粒灰色低地土じょう IV (GL-C-IV)

本土じょうは断面の主要土層が灰色～灰かっ色を呈し、下層が砂質の土じょうで、透水性が良好で鉄の班紋の集積が下層ほど多い。保肥力は中程度で有効土層はやや厚く、生産性は中程度である。

岩美郡国府町（宮下）、八頭郡八東町（日下部）の水田の一部に分布する。

## 3 グライド

本土じょうは全層～作土直下よりグライ層の発達したもので本図葉では次の二つに区分される。

## (1) 細粒グライ土じょう (G-f)

本土じょうは全層～作土下80cm以内より青灰色のグライ層をもつ粘質～重粘質な土じょうで透水性は極めて不良で、周年滞水状態のところが多い、岩美郡国府町を中心とする普含寺泥岩層地帯周辺の谷間水田に分布し生産性は低い。

## (2) 粗粒グライ土じょう (G-C)

本土じょうは断面の主要土層が、灰色を呈し全層砂質で班紋を有する土じょうであるが、作土下50cm～80cmにかなり発達した青灰色のグライ層をもち、沖積低地の水田にみられ、八頭郡八東町（徳丸）に僅かに分布する。

（鳥取県農業試験場 西尾 一雄）

## IV 水系、谷密度分布図

水系分布をみると、本地域の主要河川は袋川、私都川（キサイチ）八東川であり、これらの河川はいづれも南西から北西方向に流れ、部分的にはこれと直交する方向に屈折して、かなり直線的な流路を示している。またこれらの河川に流れこむ低次の小河川にもかなり同一方向の直線的な水系が認められる。このような水系の排列は本地域の地質構造、とくに断層や節理の構造と関係しているようである。しかし一次、二次の低次の小河川の形成する水系は一般的には樹枝状のものが卓越している。

もう一つの水系パターンは、著しく細長い平行型ないし格子型のものである。これは、主に溶岩台地上に発達するタイプの水系で、本地域内では稲葉山高原、河合谷高原や広留野高原上に典型的に発達している。これらの水系は前輪廻の谷地形に相当し、比較的浅い谷で、U字状に近い横断面形をもち、縦断面の勾配は非常に緩やかである。

谷密度の分布をみると、山地は一般に壮年的に開析されているため谷密度が大であるが、平地は谷密度が極めて小であることが明らかである。また、扇ノ山や氷ノ山の山頂平坦面がみられる県境部や溶岩台地面の上では谷密度が比較的小さいことがわかる。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)

## V 傾斜区分図

傾斜区分図は5万分の1地形図上において、できるだけ多くの地点において等高線間隔から傾斜度を読みとり、その大きさを $40^\circ$ 以上、 $30^\circ\sim 40^\circ$ 、 $20^\circ\sim 30^\circ$ 、 $15^\circ\sim 20^\circ$ 、 $8^\circ\sim 15^\circ$ 、 $3^\circ\sim 8^\circ$ 、 $3^\circ$ 未満の7段階に分けて単位斜面毎に分類して図化した。本地域の傾斜分布を概観すると、 $40^\circ$ 以上の急斜面は河川の攻撃斜面や段丘崖などに局所的にみられる他、扇ノ山に由来する溶岩の急崖部にしばしば良好に分布している。若桜町の千石岩や諸鹿の屏風岩などがその事例にあたる。

傾斜 $20^\circ\sim 30^\circ$ および $30^\circ\sim 40^\circ$ の斜面は大起伏、中起伏、小起伏の各山地に普通に発達している。 $15^\circ\sim 20^\circ$ の斜面は第三紀層からなる山ろく地に相当ひろく分布している。傾斜 $15^\circ$ 以下 $3^\circ$ 以上の緩斜面は溶岩台地、火山斜面、山頂緩斜面などに広く分布している。傾斜 $3^\circ$ 以下のものは袋川扇状地や私都川、八東川沿いの沖積谷底平野に分布している。

(鳥取大学 文部教官 豊島 吉則)



## Ⅵ 開 発 規 制 図

本図葉内には河川流域に良好な農耕地が、また山岳地には氷ノ山、扇ノ山等の行楽地があるが、これら優れた資源を高度に利用するための土地利用計画は自然環境、遺跡、文化財等の保護との調和のとれたものでなければならない。

本図葉内における土地利用及び開発を制限する人為的要因は次のとおりである。

### 1 国 定 公 園

本図葉内の山岳地は氷ノ山後山那岐山国定公園の公園区域の一部となっている。この公園区域内の行為制限は自然公園法（昭和32年6月1日法律第161号）によって定められ一定の手続きを経なければならない。

### 2 鳥 獣 保 護 区

久松山周辺、扇ノ山北部、氷ノ山周辺、郡家町宮谷地区周辺が鳥獣保護区に設定されている。これらの区域内では巣箱、給餌台、給水器等を設置し鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律（大正7年4月4日法律第32号）によって鳥獣の捕獲が禁止されている。

### 3 保 安 林

図葉内の山地一帯は広域的に水源かん養保安林が、又各地に局地的に土砂崩壊防備保安林等が指定されている。

保安林の法的規制は森林法（昭和26年6月26日 法律第249号）により規定されている。

### 4 砂 防 指 定 地

砂防設備を必要とする土地、又は、治水砂防のため一定の行為を制限しようとする土地は砂防指定地に指定されている。これら砂防指定地には、砂防えん堤、護岸などの砂防工事が実施されており、本図葉内には59河川が指定されている。砂防指定地内の行為制限は、砂防法（明治30年3月30日法律第29号）によって定められている。

### 5 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は急傾斜の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年7月1日法律第57号）に基づき指定されるもので本図葉内に3か所指定されており、急傾斜地の崩壊防止工事の実施並びに行為制限措置などが講ぜられている。

### 6 地すべり防止区域

本図葉内の地すべり防止区域は国府町に3か所、八東町に1か所指定されている。地すべり防止区域は、地すべり等防止法（昭和33年3月31日法律第30号）によって地域の保全と民生の安定のための防止策が講ぜられるとともに、行為の制限がとられている。

## 7 国 有 林

本図葉内の国有林は扇ノ山、氷ノ山を中心とする東部山岳地帯及び久松山に存在する。国有林を借受け又は使用する場合には、国有林野法（昭和26年6月23日法律第246号）により、営林署長又は営林局長の承認を要する。

## 8 史跡、天然記念物及び埋蔵文化財

本図葉内には史跡、天然記念物として指定されているものが8件あり、それぞれ文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）及び鳥取県文化財保護条例（昭和34年12月25日鳥取県条例第50号）によって保護されている。

また、文化財保護法では埋蔵文化財についても保護上必要な規定が設けられており、この図葉内には52か所の遺跡が確認されている。これらに関する法的規制等の概要は、次のとおりである。

### (1) 許可を必要とするもの

史跡、名勝、天然記念物に関する現状変更等の制限

国 指 定 文化庁長官 （文化財保護法第80条）

県 指 定 県教育委員会 （鳥取県文化財保護条例第34条）

### (2) 届出を必要とするもの（文化庁長官）

埋蔵文化財の発掘（法第57条、第57条の2）

遺 跡 の 発 見（法第57条の5）

### (3) 通知を必要とするもの（文化庁長官）

国の機関、地方公共団体、国若しくは地方公共団体の設立に係る法人で政令の定めるものが、周知の遺跡を発掘しようとするときあるいは新たに遺跡を発見したとき。

埋蔵文化財の発掘（法第57条の3）

遺 跡 の 発 見（法第57条の6）

なお、埋蔵文化財については資料が十分でないため、県教育委員会では昭和47年度から分布調査を継続中であり、開発計画の策定にあたっては教育委員会と十分事前に協議することが望ましい。

## 〈資料提供機関〉

衛生環境部自然保護課，農林部林務課，農林部造林課，土木部砂防利水課，教育委員会事務局文化課

## VII 土地 利用 現 況 図

本図葉は岩美郡国府町，八頭郡郡家町，船岡町，八東町，若桜町を主体とし，鳥取市，岩美郡岩美町，福部村の一部を包括している。

### 1 農 地

#### (1) 水 田

本図葉内の水田は八東川，私都川，袋川の三大河川による沖積地で上流に粗粒灰色低地土じょうが分布し，下流になるにつれて灰色低地土じょう，細粒灰色低地土じょうが連なっている。耕地の主要部分は粗粒灰色低地土じょうと灰色低地土じょうで透・排水性は良好で裏作可能地であり穀倉地帯である。

多湿黒ボク土じょう，灰色低地土じょう地帯に巨峯ぶどう（岩美郡国府町）細粒灰色土じょう地帯にハウス栽培（岩美郡国府町）粗粒灰色，灰色低地土じょう地帯には転作タバコ，ハウス苺，玉葱（郡家町，八東町，河原町）の栽培が盛んである。

#### (2) 畑

本図葉内の畑はその大部分はかつ色森林土地帯の山裾に開けた畑で傾斜が急なものが多く，ほとんどのものが樹園地として利用されている。

また黒ボク土じょう畑は若桜町広留野，鳥取市上野に分布し前者は大根，後者はすいか，タバコ，梨，花木の栽培が行われ高度に土地利用されている。

### 2 林 地

本図葉内の国有林は，罫ノ山，陣鉢山，氷ノ山を結ぶ兵庫県境に位置し，スギの人工林と広葉樹の天然林が大部分である。

民有林はスギの人工林と混交林が広く分布し，広葉樹の天然林は，本図葉の上部から国有林との境界付近に分布し，マツの人工林が里山を中心に点在している。

保安林は，水源かん養保安林が広く指定され，土砂流出防備保安林，土砂崩壊防備保安林及びびなだれ防止保安林が部分的に指定されている。

### 3 都 市・村 落

本図葉には都市はないが各河川の流域に村落が発達している。

（鳥取県農業試験場 西尾 一雄）

（鳥取県農林部林務課 角脇 智）  
（ “ ” 寺坂 安雄）

## あ と が き

- 1 本調査は、国土調査法（昭和26年6月1日法律第180号）第5条第4項の規定により昭和51年7月2日国土調査の指定を受け、国土庁の都道府県土地分類基本調査費の補助金により、鳥取県が調査主体となって実施したものである。
- 2 本調査成果は国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 3 調査の実施、成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

指 導 国土庁土地局

総 括	鳥取県農林部農業指導課	課 長	西尾 昭富
	〃	課長補佐	美川 季晴
企画調整編集	〃	〃	小川 末広
	〃	主 任	池内 孝明
地形調査	鳥取地学調査会鳥取大学教育学部	文部教官	豊島 吉則
表層地質調査	鳥取地学調査会鳥取大学教育学部	文部教官	赤木 三郎
土じょう調査	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾 一雄
	鳥取県林業試験場	研 究 員	平尾 勝男
土地利用現況調査	鳥取県農林部林務課	課長補佐	角脇 智
	鳥取県農業試験場	土じょう保全科長	西尾 一雄
開発規制調査	鳥取県農林部農業指導課	主 任	池内 孝明

4. 協力機関は次のとおりである。

鳥取県企画部企画課  
〃 〃 統計課  
〃 衛生環境部自然保護課  
〃 農林部林務課  
〃 〃 造林課  
〃 〃 砂防利水課  
〃 教育委員会事務局文化課

1977年3月 印刷 発行

千代川流域地域

土地分類基本調査

若 桜・村 岡

編集発行 鳥取県農林部農業指導課

鳥取市東町一丁目 220

印 刷 緑川地図印刷株式会社

東京都墨田区吾妻橋二丁目18番3号